

美術科

美術科について，以下の観点に基づき，発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 学習課題や目標の明示，適切なまとめや振り返り活動の設定など，生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。
- 2 習得した知識・技能を活用しながら，生徒が問題発見・解決的な学習，話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み，多面的・多角的に考察しながら，思考力・判断力・表現力等を身につけられるよう工夫・配慮がなされていること。
- 3 生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう，能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ，さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。
- 4 日常生活や社会の中の美術の働きや美術文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう，生徒が対象や事象を造形的な視点で捉え，表現及び鑑賞の幅広い活動を通して自分なりの意味や価値をつくるなど，造形的な見方・考え方を働かせた活動が適切に取り上げられていること。
- 5 表現及び鑑賞の活動が相互に関連付けられているとともに，対象や事象を形，色彩，材料，光などの性質や働き，全体のイメージ等で捉え，生徒が強く表したいことを豊かに発想したり，構想したり，感性や想像力を高めたりしながら，美術の創造活動の喜びを味わい，美術を愛好する心情，伝統と文化を尊重しそのよさを継承・発展しようとする態度，豊かな情操等を養えるよう工夫・配慮がなされていること。
- 6 生徒が人権の重要性を学び，人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ，基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう，人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。
- 7 系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え，他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく，また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。
- 8 表記，表現，写真，図表等が適切かつ正確であることに加え，ユニバーサルデザインの観点から，文字フォント，色の使用，紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また，再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

美術科

調査研究の結果の概要

■開隆堂出版「美術 1 発見と創造」「美術 2・3 探求と継承」

巻末に「学びの資料」として、構図の捉え方や映像メディアの活用方法など、表現のための技法理解や鑑賞材料などの基礎的な知識、様々な用具の基本的な使い方などがまとめられており、生徒が主体的に基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫されている。

各題材の「学習のポイント」においては、形や色などの性質や働き、全体のイメージのほか、目標に応じたポイントが示され、生徒が見方・考え方を働かせながら、豊かな発想や構想に基づき、感性や想像力を高めていけるよう工夫されている。また、伝統を生かしつつ現代の生活に合わせて進化したり、形を変えて使われている美術の事例が掲載されたりするなど、生徒が日本ならではの伝統と文化の良さに気づき、尊重する態度を養えるよう工夫されている。

原寸大の作品や部分を拡大した写真が掲載され、その題材に関して話し合い活動を行う設定とすることで、小さい図版では気付かないような細かい表現を見て取ることができ、生徒の探究意欲を高め、鑑賞の視点を広げたり、表現に生かしたりする中で、主体的・対話的な学習につながるよう工夫されている。

一方、各題材の「学習の目標」で造形的な視点が示され、生徒が造形的な見方・考え方を働かせて発想や構想につなげる構成としているが、掲載されている作品の色味の豊かさが十分でないものがある。

また、表現活動と鑑賞活動について「発想・構想の手だて」の提示や「学習のポイント」などの発問を設けることで、生徒がその関連や系統性を考えて取り組めるよう構成されているが、各題材の構成が「表現」と「鑑賞」にそれぞれ独立しており、1つの題材の中で表現活動と鑑賞活動が結び付くようなポイントが明示されておらず、生徒に表現と鑑賞を相互に意識させたり、関連させたりする手立てが弱い。

■光村図書出版「美術1」「美術2・3」

巻末に「学習を支える資料」として、材料や用具、技法、形と色などの具体例を簡潔に解説するページが掲載され、同じ題材で異なる配色や材料、道具を使った表現を並べて配置するなど、違いがわかりやすいレイアウトにするとともに、生活や社会における活用例も示されている。また、題材ページには関連する巻末資料が表示されているため、生徒が主体的に基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう優れた工夫がされている。

また、各題材に鑑賞活動を設定し、巻末の「学習を支える資料」と対応させながら、作品のよさや美しさを感じ、造形的な視点を働かせる発問を挿入することで、生徒が色や形を意識し、造形的な見方・考え方を働かせて、作品を深く鑑賞したり、豊かに感性や想像力を働かせながら学習ができるよう工夫されている。また、巻末資料に全国47都道府県の伝統工芸一覧を掲載したり、北海道のアイヌ民族衣装と沖縄の紅型を比較した資料を掲載したりするなど、伝統と文化を尊重し、その良さを理解・継承・発展しようとする態度を養えるよう工夫されており、優れている。

風合いのある用紙に作品が印刷され、触って質感を味わえるようにしたり、題材「最後の晚餐」では、トレーシングペーパーをページに挟み、直接書き込めるようにするとともに、作者の表現

の工夫を話し合う活動を取り入れるなど、生徒が主体的に学習に取り組み、対話的な活動を促す工夫がされている。

さらに、各題材で「表現」「鑑賞」両方のポイントが記載されており、生徒が造形的な視点から見方・考え方を働かせ、作者の主題に気付き、表現と鑑賞の活動を相互に関連付けながら資質・能力を身に付けることができるよう工夫されている。また、「表現」「鑑賞」の文章表現も、生徒が学習した知識や気付きを生かして、「表現」と「鑑賞」との関連を様々な視点から捉え、一体的に学習することができるよう工夫されており、優れている。

■日本文教出版「美術1 美術との出会い」「美術2・3上 学びの実感と広がり」

「美術2・3下 学びの探求と未来」

巻末に「学びを支える資料」として、技法・色彩・鑑賞に分けて必要な解説がまとめられたページが掲載されるとともに、題材ページには「参照」として関連する巻末資料が紹介されており、生徒が主体的に基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫されている。

各題材の主文等に、表現と鑑賞の双方で働く造形的な見方・考え方が示され、鑑賞したことが発想や構想に生かされるよう工夫されている。また、生徒のアイデアスケッチや作品の他、「作者の言葉」で考えたことがどのように具現化していくか、イメージできるよう工夫されている。加えて、伝統の技を現代の生活に合わせた作品を含め、伝統工芸など伝統と文化に関わる作品が多く取り上げられており、生徒が身近なものに関心を向け、感性や想像力を働かせることができるよう優れた工夫がされている。

生徒が主体的に学習に取り組めるように、学習内容をイメージできるサブタイトルや、考えを伝え合ったり、相談したりしながら、協働して造形活動を進める写真を掲載するなど、生徒が対話を重ねながら主体的・対話的に学習が進められるよう工夫されている。

各題材で「造形的な視点」として、作品の鑑賞ポイントが明示されるとともに、その作品の主題と結び付く作者の言葉や解説が示され、自身の発想や構想の手立てとすることができるよう工夫されている。

また、題材ごとに「学びの目標」が「表現」と「鑑賞」双方の内容で示され、「造形的な視点」と併せて鑑賞することにより、生徒が鑑賞して気付いたことを活用し、表現及び鑑賞活動を相互に関連付けながら見通しを持って学習が進められる構成としている。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点		開隆堂	光村図書	日本文教出版
1	学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること	1	基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた工夫	○	◎	○
		2	指導事項(学習のめあてや振り返り活動等)の明示	○	○	○
2	習得した知識・技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力・判断力・表現力等を身につけられるよう工夫・配慮がなされていること	1	習得した知識・技能の活用を促す工夫	○	◎	○
		2	問題解決的な学習や言語活動の充実の工夫	○	○	◎
		3	思考力・判断力・表現力の育成に向けた工夫	○	◎	○
3	生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすい工夫・配慮がなされていること	1	主体的・対話的な学習に向けた工夫	○	○	○
		2	探究意欲を高める工夫	△	◎	○
		3	発展的な学習活動につながる工夫	○	○	○
4	日常生活や社会の中の美術の働きや美術文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう、生徒が対象や事象を造形的な視点で捉え、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して自分なりの意味や価値をつくるなど、造形的な見方・考え方を働かせた活動が適切に取り上げられていること	1	日常生活や社会での美術の働きや美術文化との関わり工夫	○	○	○
		2	造形的な視点で捉えることができる内容と展開の工夫	△	◎	○
5	表現及び鑑賞の活動が相互に関連付けられているとともに、対象や事象を形、色彩、材料、光などの性質や働き、全体のイメージ等で捉え、生徒が強く表したいことを豊かに発想したり、構想したり、感性や想像力を高めたりしながら、美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情、伝統と文化を尊重しそのよさを継承・発展しようとする態度、豊かな情操等を養えるよう工夫・配慮がなされていること	1	表現と鑑賞の関連を図る手立ての工夫	△	◎	○
		2	形や色などの捉え方や全体のイメージを大切に展開の工夫	○	○	○
		3	発想力や構想力を高めたり、感性や創造力を十分に働かせる活動の充実	○	◎	◎
6	生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること	1	人権教育の推進	○	○	○
		2	道徳教育の推進	○	○	○
7	系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること	1	題材構成の系統性・発展性	○	○	○
		2	他教科や教育課題等との関連	○	○	◎
		3	他校種との接続	○	○	○
		4	家庭・地域との連携	○	○	○
8	表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすい工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること	1	文字や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさ	○	○	○
		2	ユニバーサルデザインの視点	○	○	○
		3	装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	◎	○
		4	用紙、インク等の環境面への配慮	○	○	○

【美術科】観点別資料

【選定の観点1】

学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名		
9 開隆堂	3 8 光村	1 1 6 日文
○巻末に「学びの資料」として、構図の捉え方や映像メディアの活用方法など、表現のための技法理解や鑑賞材料などの基礎的な知識、様々な用具の基本的な使い方などがまとめられているため、生徒がいつでも主体的に調べることができ、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫されている。 ○各題材名の横に育成すべき3つの資質・能力に応じた「学習の目標」を簡潔に明示するとともに、「学習のポイント」としてその題材で考えたり話し合ったりするポイントを示すことで、生徒にとって題材のねらいや身に付けるべき知識・技能がわかりやすくなるよう配慮されている。また、巻末に「学びの資料」として、材料や用具の使い方などをまとめて掲載することで、生徒が学習した知識・技能を必要に応じて参照・振り返ることができるよう工夫されている。	○巻末に「学習を支える資料」として、材料や用具、技法、形と色などの具体例を簡潔に解説するページが掲載され、同じ題材で異なる配色や材料、道具を使った表現を並べて配置するなど、違いがわかりやすいレイアウトにするとともに、生活や社会における活用例も示されている。また、題材ページには関連する巻末資料が表示されているため、生徒がいつでも主体的に調べることができ、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう優れた工夫がされている。 ○各題材の最初に生徒にとってわかりやすい表現で目標が示され、その題材で考える視点を「表現」「鑑賞」の2つの領域ごとに明示することにより、1つの題材で「表現」「鑑賞」を一体的に学ぶことができるよう工夫されている。また、巻末に「学習を支える資料」として、材料や用具の使い方などをまとめて掲載することで、生徒が学習した知識・技能を必要に応じて参照・振り返ることができるよう工夫されている。	○巻末に「学習を支える資料」として、技法・色彩・鑑賞に分けて必要な解説がまとめられたページが掲載されるとともに、題材ページには「参照」として関連する巻末資料が紹介されているため、生徒がいつでも主体的に調べることができ、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫されている。 ○各題材名の横に育成すべき3つの資質・能力に応じた「学びの目標」を簡潔に明示するとともに、「造形的な視点」としてその題材で考えたり話し合ったりするポイントを示すことで、生徒にとって題材のねらいや身に付けるべき知識・技能がわかりやすくなるよう工夫されている。また、巻末に「学習を支える資料」として、材料や用具の使い方などをまとめて掲載することで、学習した知識・技能を必要に応じて参照・振り返ることができるよう工夫されている。

【選定の観点2】

習得した知識・技能を活用しながら，生徒が問題発見・解決的な学習，話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み，多面的・多角的に考察しながら，思考力・判断力・表現力等を身につけられるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名		
9 開隆堂	38 光村	116 日文
○「奥行きの表現」など，複数の題材に横断的に活用されている基礎的な知識や技能について，巻末の「学びの資料」に系統的に示されていることに加え，題材のねらいが相互に関連するページをマークで示すことにより，生徒が習得した知識・技能を主体的に活用できるよう工夫されている。 ○各題材の「学習のポイント」において，題材に関する特徴を発見するなど具体的な学習課題を提示したり，感じたり気付いたことを話し合う活動を取り入れることで，生徒が問題解決的な活動を通して言語活動の充実が図られるよう工夫されている。 ○生徒が題材に関するイメージを広げられる手立てを示すとともに，各題材に思考力・判断力・表現力に関する「学習の目標」が示されるなど，工夫されている。	○鉛筆や筆による描き方など，複数の題材に横断的に活用されている知識・技能について，巻末の「学習を支える資料」に系統的に示されていることに加え，「みんなの工夫」として，中学生の生き生きとした実際の制作過程の様子が発想や構想とともに紹介されることにより，自身の発想・構想や制作過程と比較しながら習得した知識・技能を主体的に活用し，自身の表現に生かしていけるよう工夫されており，優れている。 ○各題材の「表現」「鑑賞」の中で，それぞれの領域に関する学習課題を提示するとともに，感じたり気付いたりしたことを話し合う活動を取り入れることで，生徒がデザインの原理・原則とその機能についての理解を深める問題解決的な活動を通して，言語活動の充実が図られるよう工夫されている。 ○巻末の「学習を支える資料」の中の「発想を広げる」において，マッピングやベン図などの思考ツール，スケッチブック，話し合いの方法などが示され，生徒がそれらを活用することで多面的・多角的に題材に関するイメージを広げるなど，思考力・判断力・表現力等が身に付くよう工夫されており，優れている。	○「色彩の基本・仕組み」など，複数の題材に横断的に活用されている知識・技能について，巻末の「学びを支える資料」に系統的に示されていることに加え，題材のねらいに関連した作品を掲載することにより，生徒が習得した知識・技能を主体的に活用できるよう工夫されている。 ○各題材の「造形的な視点」において，題材の特性とデザインの工夫などについて具体的に考えたり話し合う活動を行うことで，生徒が問題解決的な活動を通して言語活動の充実が図られるよう工夫されている。また，「つくってみよう」「デザインしよう」などの活動において，生徒が話し合い活動などによりコミュニケーションを取りながら造形活動を行う様子を写真で紹介するなど，言語活動の充実を図るための工夫が優れている ○巻末「学びを支える資料」の「発想・構想の手立て」において，生徒が構想のイメージを広げられるよう，マッピングやアイデアスケッチ例を示すなど，思考力・判断力・表現力等が身に付くよう工夫されている。

【選定の観点3】

生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名		
9 開隆堂	38 光村	116 日文
○原寸大の作品や部分を拡大した写真が掲載され、その題材に関して話し合い活動を行う設定とすることで、小さい図版では気付かないような細かい表現を見て取ることができ、生徒の探究意欲を高め、鑑賞の視点を広げたり、表現に生かしたりする中で、主体的・対話的な学習につながるよう工夫されている。 ○鑑賞「日本らしさ」では平安時代から江戸時代に生まれた、諸外国の美術に影響を与えた日本美術が掲載され、生徒が日本美術の魅力に気付く構成としているが、情報が多く、1つの作品をじっくり鑑賞することや、作品の特徴に触れる発問、その差を比較する資料が少ないなど、探究的な学びを促す手立てが十分でない。 ○「伝統と創造」の題材で、焼き物など、わが国で誕生・継承・発展してきた伝統工芸の技術について、現代の新しい感覚で表現した作品を扱うことで、生徒が伝統を大切にしつつ、新しい形を生み出す発展的な学習に結び付けることができるよう工夫されている。	○風合いのある用紙に作品が印刷され、触って質感を味わえるようにしたり、題材「最後の晚餐」では、トレーシングペーパーをページに挟み、直接書き込めるようにするとともに、作者の表現の工夫を話し合う活動を取り入れるなど、生徒が主体的に学習に取り組み、対話的な活動を促す工夫がされている。 ○題材「北斎からゴッホへ」において、作品を比較し、構図や形、色の視点から比較しながら鑑賞できるよう折込みページの裏表に作品を掲載し、作品を比較しやすいレイアウトとするなど、生徒が違いや共通点を探究する意欲につながるよう工夫されており、優れている。 ○美術1では基礎的・基本的な知識・技能が定着するよう、導入で美術の学習の内容や方法について詳しく説明され、巻末の技法などの資料も充実している。また、美術2・3では、思考を深める方法や協議の進め方などを学習する内容とすることで、発展的な学習活動につながる工夫がされている。	○生徒が主体的に学習に取り組めるように、学習内容をイメージできるサブタイトルや、考えを伝え合ったり、相談したりしながら、協働して造形活動を進める写真を掲載するなど、生徒が対話を重ねながら主体的・対話的に学習が進められるよう工夫されている。 ○実物の作品鑑賞に近い体験を通して、生徒が作品の魅力に気付けるよう、「真珠の耳飾りの少女」、「神奈川沖浪裏」、「火焰型土器」など、原寸大の鑑賞図版を掲載するなど、探究意欲を高めるよう工夫されている。 ○鑑賞題材「なんでこれが美術なの？」において、社会の課題に疑問を投げかけたり、問い直したりしている現代アート作品や、映像表現をはじめとした様々な表現媒体を掲載することで、生徒が美術表現の広がりや可能性に気付くとともに、発展的に学習につなげる視点が持てるよう工夫されている。

【選定の観点4】

日常生活や社会の中の美術の働きや美術文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう、生徒が対象や事象を造形的な視点で捉え、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して自分なりの意味や価値をつくるなど、造形的な見方・考え方を働かせた活動が適切に取り上げられていること。

発行者名		
9 開隆堂	38 光村	116 日文
○美術2・3「暮らしに生きる美術」において、様々な分野で活躍する人が、美術で学んだ力をどのように生かしているか具体的に書かれたコラムを掲載したり、巻末のまとめ「美術の力を生かして社会とかかわる」において、美術で学習した内容を社会に生かすことを考えたりすることを通して、表現力だけでなく多様性を認める力、心を豊かにする力など、生徒が多様な視点から生活や社会での美術の働きについて理解し、美術との豊かな関わりを考えることができるよう工夫されている。 ○各題材の「学習の目標」で造形的な視点が示され、生徒が造形的な見方・考え方を働かせて発想や構想につなげる構成としているが、掲載されている作品の色味の豊かさが十分でないものがある。	○美術1「デザインって何だろう？」において、生活の中で気づく色や形がデザインされている物や場面を、1日の時間の流れに沿って紹介することで、生徒が日常生活や社会の中にある美術に気付き、考えるきっかけとしている。また、巻頭の「うつくしい！」において、中学生が美しいと思った瞬間や風景を撮影した写真を掲載することで、身近にある「美しさ」に目を向けられるよう工夫されている。 ○各題材で「表現」「鑑賞」両方のポイントが記載されており、生徒が造形的な視点から見方・考え方を働かせ、作者の主題に気付き、造形的な視点をもとに学習を振り返り、表現と鑑賞の活動を相互に関連付けながら資質・能力を身に付けることができるよう工夫されており、優れている。	○各冊巻頭の様々な分野で活躍する著名人による「学びの言葉」、美術2・3下「社会に生きる美術の力」で、自身の感性を磨くことや、他人の行動に影響する「仕掛け」の考案など、美術がもたらす、自身に身に付く力や他人に作用する力などが紹介され、生徒が生活の中の美術や社会と美術とのつながりに目を向け、美術と豊かに関わることについて考えることができるよう工夫されている。 ○各題材で「造形的な視点」として、作品の鑑賞ポイントが明示されるとともに、その作品の主題と結びつく作者の言葉や解説が示され、生徒が造形的な見方・考え方を働かせながら、自身の発想や構想の手立てとすることができるよう工夫されている。

【選定の観点5】

表現及び鑑賞の活動が相互に関連付けられているとともに、対象や事象を形、色彩、材料、光などの性質や働き、全体のイメージ等で捉え、生徒が強く表したいことを豊かに発想したり、構想したり、感性や想像力を高めたりしながら、美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情、伝統と文化を尊重しそのよさを継承・発展しようとする態度、豊かな情操等を養えるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名		
9 開隆堂	3 8 光村	1 1 6 日文
○表現活動と鑑賞活動について「発想の手立て」や「学習のポイント」などの発問を設けることで、生徒がその関連や系統性を考えて取り組めるよう構成されているが、各題材の構成が「表現」と「鑑賞」にそれぞれ独立しており、1つの題材の中で表現活動と鑑賞活動が結び付くようなポイントが明示されておらず、生徒に表現と鑑賞を相互に意識させたり、関連させたりする手立てが弱い。 ○それぞれの作品がどのようなイメージからその表現へ至ったかを理解しやすいよう、題材全般を通して、作品と共に作者の言葉を添えて掲載するなど、工夫されている。 ○各題材の「学習のポイント」において、形や色などの性質や働き、全体のイメージのほか、目標に応じたポイントが示され、生徒が見方・考え方を働かせながら、豊かな発想や構想に基づき、感性や想像力を高めていけるよう工夫されている。また、伝統を生かしつつ現代の生活に合わせて進化したり、形を変えて使われている美術の事例が掲載されたりするなど、生徒が日本ならではの伝統と文化の良さに気付き、尊重する態度を養えるよう工夫されている。	○題材の中で「表現」「鑑賞」の相互関係が意識され、生徒が各活動で学習内容を確認し、造形的な見方・考え方を働かせながら学習できるよう構成されている。また、「表現」「鑑賞」の文章表現も、生徒が学習した知識や気付きを生かして、「表現」と「鑑賞」との関連を様々な視点から捉え、一体的に学習することができるよう工夫されており、優れている。 ○作者の制作意図、主題を生み出していく過程が理解できるよう、題材全般を通して、それぞれの作品がどのようなイメージから形や色の表現へ至ったのかを示す作者の言葉とともに作品を掲載するなど、工夫されている。 ○各題材に鑑賞活動を設定し、巻末の「学習を支える資料」と対応させながら、作品の良さや美しさを感じ、造形的な視点を働かせる発問を挿入することで、生徒が色や形を意識し、造形的な見方・考え方を働かせて、作品を深く鑑賞したり、豊かに発想・構想したりするなど、感性や想像力を働かせながら学習ができるよう工夫されている。また、巻末資料に全国47都道府県の伝統工芸一覧を掲載したり、北海道のアイヌ民族衣装と沖縄の紅型を比較した資料を掲載したりするなど、伝統と文化を尊重し、その良さを理解・継承・発展しようとする態度を養えるよう工夫されており、優れている。	○題材ごとに「学びの目標」が「表現」と「鑑賞」双方の内容で示され、「造形的な視点」と併せて鑑賞することにより、生徒が鑑賞して気付いたことを活用し、見通しを持って表現及び鑑賞活動ができるよう、相互に関連付けながら学習が進められる構成としている。 ○作者の考えに触れ、主題を生み出していく過程が理解できるよう、題材全般を通して、それぞれの作品がどのようなイメージから表現へ至ったのかを示す作者の言葉を添えて作品を掲載するなど、工夫されている。 ○各題材の主文等に、表現と鑑賞の双方で働く造形的な見方・考え方が示され、鑑賞したことが発想や構想に生かされるよう工夫されている。また、生徒のアイデアスケッチや作品の他、「作者の言葉」で考えたことがどのように具現化していくか、イメージできるよう工夫されている。さらに、伝統の技を現代の生活に合わせた作品を含め、伝統工芸など伝統と文化に関わる作品が多く取り上げられており、生徒が身近なものに関心を向け、感性や想像力を働かせることができるよう優れた工夫がされている。

【選定の観点6】

生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道德性を身に付けられるよう、人権教育や道德教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。

発行者名		
9 開隆堂	38 光村	116 日文
○平和に向けての活動や震災に見舞われた日本の中高生が、言葉や文化の壁を越え、造形活動を通してパリで東北地方の魅力を世界に発信する取組を紹介したり、様々な国や地域における芸術による共生や理解についての具体的な解説などを掲載することで、美術を通して人権への理解が深まるよう工夫されている。 ○道德と関連する題材のページの左下には、マークとともに道德の学習内容が示され、生徒が道德との関連を意識して学習できるよう工夫されている。	○LGBT, いじめといった、今日的な人権問題を啓発する作品などを取り上げ、人権について深く考えることができるよう工夫されている。また、作品の鑑賞を通して、題材のねらいや意図を自分ごととして捉え、人の気持ちに寄り添うことに気付かせる作品を掲載している。 ○道德と関連する題材のページ下には、「道德科とのつながり」というマークとともに道德の内容項目が示され、生徒が道德との関連を意識して学べるよう工夫されている。また、美術2・3では、内容項目として「社会参画、公共の精神」「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」が取り上げられ、生徒の成長に合わせ、道德的な視点と併せて、社会と美術のつながりが実感できるよう工夫されている。	○アールブリュットや震災被災者、視覚障がい者など表現者の多様性や、様々な立場の人が鑑賞することを想定した美術作品、平和や人権に関わる作家作品やポスターを取り上げることで、生徒が社会的な課題を解決する美術の力について考えることができるよう工夫されている。 ○題材ページ下部に道德の内容項目に合わせて、生徒に語りかける内容が示され、道德的な視点をもって考えられるよう工夫されている。また、「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」は各学年で取り扱われ、道德的な視点と併せて、生徒が日本の文化に対する理解を深め、社会との関わりについて考えられるよう工夫されている。

【選定の観点 7】

系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。

発行者名		
9 開隆堂	3 8 光村	1 1 6 日 文
○美術 2・3 の「まとめ」で「美術の力を生かして社会とかかわる」という章を設け、これまでの学習を通して培った力や多様な見方・感じ方を生かして、これからの生き方や自身の未来を考える内容が掲載され、3 年間の学びと豊かに生きることとの結び付きを感じ取れるよう工夫されている。 ○各題材の下部に、美術の学習と関連付けて学習することができる教科とその内容をマークで示すことで、生徒が他教科と関連付けて美術における学びを深めたり、生かしたりする姿勢が育めるよう工夫されている。 ○美術 1 の巻頭「図画工作から美術へ」で小学校の図画工作からつながる美術の学習について説明され、また、次ページ「学びの地図」では、表現と鑑賞がそれぞれどのような学習なのかイメージ写真とともに示されるなど、小学校での学びをどのようにつなげていくか見通しを持って学習できるよう工夫されている。 ○身近な地域にある美術館や作品を全国各地の事例を取り上げて掲載し、美術 1「祭りの造形」では、祇園祭の山鉾やねぶた祭のねぶた師に触れるなど、地域の実態に応じて活動できるよう配慮されている。また、工芸品ではそれぞれの地域の風土や伝統を反映した造形が紹介され、また施設のロゴデザインなど、生徒が地域の中の造形に目を向けることができるよう工夫されている。	○題材、目標、鑑賞、表現、と授業の流れに沿って紙面が構成され、生徒が学習の流れを把握しやすいよう工夫されていることに加え、題材について、鑑賞での対話を通して表現に結び付く発問や、制作過程や考えるヒントになる具体的な手立てが掲載されているなど、系統的・発展的に学習内容が習得できるよう工夫されている。 ○「～科とのつながり」というコラムを設け、他教科での学びを意識しながら表現や鑑賞の活動が行えるよう工夫されている。また地域の伝統と文化、SDG s を広く取り扱うことで、総合的な学習と関連させた学習ができるよう工夫されている。 ○美術 1 の巻頭に、中学生が写した写真と自筆の文章、美術とは何か、小学校の図工とはどのようなつながりがあるのか、美術作品の見方、美術の学び方を記載したページが掲載され、小学校との接続を意識した工夫がされている。 ○巻末資料の「地域と美術とのつながり」「日本の世界文化遺産」をはじめ、全般を通して全国の伝統工芸、美術施設や作家、作品を数多く紹介し、生徒が美術が身近な地域にあることに気付いたり、その活動への関心を高めたりしながら、美術の役割の理解につながる工夫がされている。また、風景や生活に目を向けた身近な題材を扱い、家庭生活の中で美術との関わりを感じ取れる工夫がされている。	○美術 1 は基礎的・基本的な内容の習得、美術 2・3 上は表現や鑑賞を深める内容、美術 2・3 下は社会とつながる美術といった構成とすることで、生徒の成長過程に合わせた系統的・発展的な学習ができるよう工夫されている。 ○曲からイメージを膨らませ、共同制作を通して絵で表現する活動や、特別活動で生かされる活動など、他教科と関連させた題材を意識的に扱うことで、生徒が美術の学習を幅広い視点で捉え、学びを広げたり、深めたりできるよう工夫されており、優れている。 ○美術 1 の巻頭に「中学校美術の世界へようこそ」として、小学校の図画工作から始まり、中学校 3 年間の学習の流れが示され、生徒が見通しを持って学習ができるよう工夫されている。 ○全国の様々な造形活動や美術館の取組、美術作品を掲載し、生徒が自分たちの住む地域や全国の活動への関心を高めながら、美術の学習に取り組めるよう工夫されている。また、全学年を通して生活と美術の関わりを感じることができる題材が扱われ、生徒が家庭で美術との関わりを考えることができるよう工夫されている。

【選定の観点８】

表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名		
9 開隆堂	38 光村	116 日本文
○A4変型判を採用し、紙面に写真をできるだけ大きく掲載し、生徒が作品の美しさや質感を感じられるよう工夫されている。また、教科の専門用語などは、同じページに「美術の用語」として表記され、わかりやすいよう工夫されている。 ○専門家の監修を得て、紙面全体に識別しやすい配色や形状を採用するなど、カラーユニバーサルデザインが採用されている。また、全ページにユニバーサルデザインフォント（UD書体）を使用している。また、中学校以降に学習する漢字や美術専門用語にはふりがなを付している。 ○製本は堅牢で、長期間の使用に耐えられるよう工夫されている。 ○環境に配慮した紙・インキが使用されている。	○主文や解説、作者の言葉も長すぎず簡潔に表現され、生徒にとって理解しやすい。レイアウトも、配色や大きさのバランスが美しく見やすく、目に優しい配色である。 ○専門家の校閲を受け、図版同士の間隔を空けたり、罫線を引くなど、境界線を明確に区別できるよう工夫されている。また、使用されているマークは、誰もが識別しやすい形や色で示され、文字がやや小さくなる場合はユニバーサルデザインフォント（UD書体）を使用するなど、見やすさが重視され、特別支援教育への配慮もされている。 ○鑑賞図版や文字が鮮明に印刷できる発色の良いコート紙が使われ、題材によって紙の質感を変えたり、書き込みできるトレーシングペーパーを綴じ込んだりするなど、生徒の鑑賞活動が深まる造本の工夫がされるとともに、製本は堅牢で、ページがめくりやすい造本となっており、使いやすく優れている。 ○環境に配慮した紙・植物油インキが使用されている。	○A4変型判を採用し、作品や写真などの視覚情報を多く掲載し、生徒が興味・関心を持って取り組めるよう工夫されている。 ○専門家の全面的な校閲のもと、コントラストや文字背景色などカラーユニバーサルデザインに配慮し、色彩特性の有無にかかわらず、すべての生徒が等しく学べるよう編集されている。題材の領域を示すアイコンは見やすい配色にデザインされ、題材名・主文全般にユニバーサルデザインフォント（UD書体）を使用し、読みやすさに配慮されている。 ○表紙は美しい光沢と耐水性のあるコーティングが施され、丈夫で水濡れに対しても耐久性がある。製本も堅牢で、長期の使用に耐えられるよう工夫されている。 ○環境に配慮した再生紙・植物油インキが使用されている。